

地域でいこう委員会

委員長 鎌田直樹(長野南福祉会) 副委員長 原広賢(デューン長野)

副委員長 山崎 玲香(長野りんどう会)

ケアマネ連絡会 相談員 小池昌代 相談員 小林彩

長野市障害福祉課担当者 古平京子 運営委員会 大池ひろ子

1、年間テーマ

①地域移行支援・地域定着支援の課題検討

②精神科病院との連携について(アンケート調査の実施、医療関係者との話し合いの場の開催)

2、部会等の開催状況

日時	会場	人数 (人)	部会のテーマ	主な内容
月 日				
5 23	長野市保健所	13	年間計画について	年間計画について検討 共有
6 20	長野市保健所	9	アンケート作成について	アンケートの内容検討
7 18	長野市保健所	12	アンケート作成について	アンケートの内容検討 実施について
8 22	長野市保健所	14	長野市保健所連絡会について	連絡会への協力、委員会の活動紹介
9 19	長野市保健所	11	アンケートのまとめ	アンケートまとめ、話し合いに向けて
11 21	長野市保健所	15	医療関係者との話し合い	医療関係者との話し合い、課題の共有
12 19	長野市保健所	11	11月の振り返り	課題の共有から見えてきたことについて
1 16	長野市保健所	14	今年度の振り返り、来年度に向けて	来年度の活動について
2 20	長野市保健所	14	今年度の振り返り、来年度に向けて	来年度の活動について、委員会のあり方について

3、機関紙、冊子、アンケート調査・行事など報告書

- ・精神科病院における入院状況に関するアンケートの作成、実施
- ・医療関係者との話し合いの場の開催
- ・長野市 精神障害者の退院支援・地域生活支援連絡会への協力 委員会の活動報告

4、課題について

(1) 主な検討課題

- ① 地域移行支援・地域定着支援の課題検討
- ② 精神科病院との連携について
 - ・市内の精神科病院を対象としたアンケートの作成、調査の実施、まとめ
 - ・医療関係者との話し合いの場の開催（アンケート調査をもとに課題の共有、連携について）

(2) 検討の目的と結果（現状）

- ① 地域移行支援・地域定着支援の現状について各事業所から報告を行い、課題の検討をおこなった。
- ② 地域移行支援における医療分野と障害福祉分野の連携を図るために、入院状況に関するアンケートを作成し、市内4病院に調査を行った。

(3) 引き続き検討が必要とされる課題

- ① 医療機関との連携について
- ② 介護保険分野との連携について
- ③ 知的・発達障がいの支援関係者との連携について
- ④ ピアサポーターの活用について

(4) 部会の運営体制について

今年度の執行部は地域移行支援にかかわる事業所（相談支援事業所・訪問看護）から選出した。昨年度から上がっていた課題をもとに、今年度取り組む課題として2つのテーマを選定し、年間の計画に基づいて検討を行った。

医療機関との連携についての取り組みでは、アンケート調査、医療関係者との話し合いから見えてきた課題について、今後も委員会として取り組めそうな部分がある。継続して検討を行っていきたいという意見があがった。

また地域での生活を続けていくことの課題への支援には医療機関との関わりだけではなく、介護分野、知的・発達障がい支援を行う関係者支援との連携が必要という意見があがり、今後の検討課題とした。委員会の構成メンバーとして参加者の拡充（委員会に未参加の一般相談支援事業所、介護分野、知的・発達障がい支援関係者等）も必要であると意見があがった。

また様々な課題（困難ケースの検討、病院へのアンケート調査の実施等）にも注力して動ける委員会としての活動は必要だという意見があがった。

5、総括（1年間を振り返って）

年間を通じてテーマに掲げていた「医療機関との連携について」の検討では、入院患者の実態と、病院側と地域の支援者での認識の差異について、アンケート調査を実施した。アンケート調査の結果について、効果の検証までは至らなかったが、そこから得られた情報をもとに医療機関との話し合いの場の開催をし、地域での生活を支援する際の課題について検討、相談方法などの情報共有を行うことができた。医療機関からも今後の検討の場への参加について協力を得られそうであった。

長野市保健所連絡会では委員会の活動報告と様々な機関との意見交換を行い、介護分野との連携について必要性を考えるきっかけとなった。

活動の中から見えてきた課題は多く、多岐にわたる検討も必要である。委員会だけの活動では解決できない課題には行政、運営委員会等の意見を含めながら整理し、取り組んでいきたい。